

刊行のことば

本報告書は、当研究所客員研究員服部信司氏を主査として、平成20年度から21年度の2カ年にわたり実施された研究会の成果をとりまとめたものである。

農産物貿易のあり方をめぐるWTO交渉は、当然のことながら、各国の農業に多大な影響を及ぼさずにはおかないが、それだけに各国の農業をめぐる固有の事情は交渉の進展を左右する大きなファクターとなる。

また、一方では各国においても、交渉を所与の前提として、交渉の指し示す方向への適応を図ろうとする改革の努力も払われてきている。

したがって、各国の農業、農政の現状とその動向は、WTO交渉の今後の帰趨と大きく関わってくるものと思われ、これらを踏まえた上で、交渉に関わる主要国の主張を理解し、交渉の行方を考察することが必要と考えられる。

本研究会は、このような考えのもとに設けられたものであるが、それぞれのテーマについて専門家から報告をいただき、また研究会にメンバーとして参加された研究者には熱心に討議いただくなど、多くの方々の協力をいただいた。報告書の刊行に当たって、これらの皆様方に心から御礼を申し上げたい。

平成22年3月

財団法人 日本農業研究所
理事長 高橋政行

